

古墳壁画の保存活用に関する検討会（第37回）議事要旨

1. 日時 令和7年6月19日（木）14:50～16:20
2. 場所 明日香村中央公民館 1Fホール
3. 出席者 <委員>

和田座長、岡林委員、泉委員、小林委員、佐野委員、大西奈良県文化財課長補佐（杉村委員代理）、染川委員、成瀬委員、林部委員、銚井委員、三浦委員、三村委員、森川委員、矢島委員、柳澤伊佐男委員、柳澤秋介委員
（オンライン）里中委員

<事務局>

文化庁：森田次長、山下文化財鑑査官、作田文化資源活用課長補佐、米村古墳壁画対策調査官、安藤文化財調査官、西主任文化財調査官、伊藤文化財調査官、横須賀文化財調査官、青木文化財調査官、山崎文化資源活用課事業係長
（オンライン）三輪文化財第一課長・古墳壁画室副室長、田中文化財第二課長・古墳壁画室室長補佐 綿田主任文化財調査官

独立行政法人国立文化財機構

東京文化財研究所：犬塚保存科学研究センター長（材料調査班長）、佐藤保存科学研究センター生物科学研究室長
（オンライン）秋山保存科学研究センター保存環境研究室長 ほか
奈良文化財研究所：廣瀬飛鳥資料館古墳壁画室長、高妻参与、石橋飛鳥資料館学芸室長、脇谷埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長 ほか
（オンライン）栗山企画調整部写真室主任 ほか
皇居三の丸尚蔵館：建石学芸部長

4. 概要

(1) 開会

(2) 森田次長挨拶、委員及び出席者紹介

(3) 議事

①現地視察をめぐる意見・感想を委員より伺った。

和田座長：本日は高松塚古墳壁画の現状と新施設を整備する区域の御視察、奈良文化財研究所が作成したVRコンテンツも体験いただいた。委員の皆様より一言ずつ御意見を賜れたらありがたい。

銚井委員：大変きれいな画像で楽しませていただき、分かりやすかった。古墳の作成過程に人が参加している画像と解体過程も加わると別の観点でより楽しめると思う。

林部委員：VRが非常によくできている。効果的な活用をすれば、高松塚古墳、キトラ古墳の理解が深まる。石の大きさがうまく伝えられたら良い。今の国交省の施設がある場所は飛鳥の南部なので、飛鳥・藤原という歴史的な景観を生かすのであれば、北にある奈文研、橿考研、明日香村の施設との連携も考えなければならない。

成瀬委員：新施設建設にあたっては、景観的な制約や地理的な条件をクリアする必要があるということだが、優先されるべきは展示される文化財の保存なので、建物の構造を配慮し、省エネを意識しながらもコントロールしやすい建物がよい。

染川委員：施設公開の際のお客様の感想、質問、やり取りをデータに残し蓄積し、一緒に展示をする形で見せると、一般の人がより興味を持ってくれるのではないかと。タブレットについては10代、20代、30代の方がどのようにスマホを使っているかというのは大事なので、意見をj得て使いよいものにまとめてほしい。

岡林委員：新施設は地形、敷地の形、高低差、高さなど規制がある厳しいスペースでの基本設計だが、解体時の発掘調査の出土資料も可能な限り収蔵できるように頑張っていたいただきたい。

大西課長補佐：VRは大変細かく作られており、納得させられるところが多々あり、すばらしい。細かいところが一般の方にも伝えられるよう工夫されたらよりよい。

佐野委員：VRはよく考えられて、つくり込まれているのに感嘆した。解説も大変分かりやすく、見ながらお話を聞くということで豊かに情報が伝わることも感慨深い。VRで人物を入れないことで、情報を端的に正確に示すという意図があったと思うが、中で絵を描いている人物があると、大きさの感覚等、壁画の制作状況も理解できるので、ところどころ人物があってもよい。また、QRコードを読んで、自分で動かせるような体験ができると良い。実際に壁画を拝見したが、石材表面の風化等に胸が痛い思いをした。現物が持っている説得力、現物の伝える力というのは非常に大きいので、公開に期待したい。

小林委員：改めて石材の持っている迫力や大きさを感じた。石を見て面白いと思った後にVRを見て、石材がどのように組み合わせられていたのか実感でき、実物を見ることと、バーチャル体験の組合せは有意義と感じた。今回は、奈文研の研究者が墳丘でタブレットを持って解説された。石材とVRの映像を使ったコンテンツが新施設と墳丘の現地でうまく組み合わせで見られるという仕掛けがこれからの工夫のしどころ。新施設と墳丘とが少し離れているので、どのように有機的につなげるか考えどころ。

泉委員：取り出された当時に比べると、かびが除去されて、きれいに見えるようになっており、修理に携わった皆様方の御努力に改めて敬意を表する。一時期は図様全体が乾いて沈んだような印象もあったが、色の濃淡、細かい文様などもよく見えるようになっており好印象を持った。VRはとても印象的で3D画像も大変よくできている。中国の雲崗研究所に、ゴーグル式のビューワーで、360度シームレスの静止画像があった。石窟の真ん中に入った状態を想定して、ゴーグルをつけて首を360度回して、見る角度をキャッチし、画像が同調して見られるもの。同じように、見る人が石室の中に入っているような状態で見られる仕掛けがあるともっと良い。

柳澤（秋）委員：新施設に向けては、注意すべき点が多々ある。引き続き文化庁と十分連携しながらスケジュールに合うように進めていく。

柳澤（伊）委員：高松塚古墳の本質的価値を、現物と、いわゆる現物で伝え切れないものをVRで代用していると思うが、それをどう伝えるか、さらに検討が必要になる。公園と文化庁の施設が一体的に整備するということだが、現在、来年の世界遺産登録を目指している飛鳥・藤原の宮都と有機的に関係させられるか。高松塚古墳そのものの本質的価値を伝えることも必要だが、飛鳥・藤原というものを、ゲートウェイ施設として、伝える範囲も意識して整備する必要がある。

矢島委員：久しぶりに石室・石材の状態を見せていただき、この間、大変な御苦労だったと思う。適切な保存と修理が進んでいるということを改めて確認できて、大変嬉しい。新施設については一般への公開と資料の完全な保全を適切に行えるような設備整備を確実に進めていただきたい。

森川委員：保全をするか、活用をするかを常に意識する必要がある。絵画を長い間、保全している間に、漆喰や石の傷みという一緒に保全する対象が増えている。1300年、壁画が保たれてきたのは、室温が一定になっていた、酸素がない状態になっていた、湿度100%になっていたことが根本だと思う。全ては不可能だが、飛鳥美人だけでも、酸素のない状態で保存・活用して、100年、200年、残していくことを御検討いただいてもいいのではないかと。最近の手法はすごく進んでいるので、

バーチャルだけでなくドローンやメタバース、いろいろ使えるものがある。それを組み合わせて、見た人がより感動するような手法を考えていただきたい。バーチャルでは、大和盆地全体の中で、飛鳥時代に横大路とか下ツ道ができて、都ができたというような位置関係の中で、高松塚あるいは飛鳥の様々なものを説明していただけないか。ゲートウェイ、エントランスという性格が強いので、駐車場の機能をもう一度考え直していただきたい。ジオラマは30年前に作った割に新鮮なので、範囲をもう少し広げて全体像を捉えていただき、人が説明する手法の考案とともに古墳全体の説明もしていただければありがたい。世界遺産も近づいてきているのでぜひお願いしたい。

三村委員：新施設は、解体、建築、移動等段取りが難しい工事で、その最中に振動等、付随して出てくる問題を抱えながら進めるため一般の土木建築工事と比べると、かなり気を遣うところが多い。版築、締固めという土を強くする作業によって今まで残ってきたということもあり、VRで古墳を作るときに、当時の人の頑張った仕事の蓄積が説明の中にあると、すごいものであることが伝わるのでは。

三浦委員：VRの有無で理解の仕方に違いが生じると思った。解体に携わった者として、当時の思いや石材のバランスの取り方が大変だったこと等は出ていないので、そういったところも将来的には説明をすると面白くなるのではないかと。

和田座長：現在の保存全体としては順調である。VRの作り方、新施設にて様々なものを展示し、公園施設としての役割と文化庁の高松塚に関連する保存公開が順調に進んでいくための示唆的な御指摘もいただけたと思う。

米村調査官：先生方から、壁画の状態、新施設での見せ方について、壁画そのもの以外にも石材もどのように見せるかという御意見もいただいた。新施設でも壁画だけではなく、その他の部分もどのように見せるかを考えたい。

廣瀬室長：大変有益な御意見をいただき感謝申し上げます。解体で得られた情報も盛り込みたかったが、現地を回りながらでは、取捨選択が必要で、今回はこの形で実施をした。新施設が拠点になると、様々なデータを盛り込めると思う。選択もできるので、まずは基のデータを整えて、人を入れるなど、細かく製作し、使用の場面と使用機器ニーズに応じて分けていくことを今後の課題としたい。

和田座長：来年度、再来年度、オープンに向けて具体的にどのようなことをしていくのか、いただいた御意見を参考に積極的に課題に取り組んでいただきたい。検討会で役に立つようなことがあれば、積極的に皆さん、お手伝いしていただけたと思う。

里中委員：カビが生えてしまったこと等で、世間の方からどうなっているんだと言われたことなどは印象に残っている。高松塚に関しては、壁画の魅力というか、多くの国民の皆様が自分たちの暮らしと結びつかない部分であるにもかかわらず、とて

も興味を持ってくださっている。それは、折に触れて様々な形で情報を公開してきた文化庁や地元の姿勢、この検討会の報告にもよっていると思う。この間の現場の方々の努力に頭が下がる思いがする。VRの活用は、今後外せないとは思っているが、どのように墳墓が造られたかということと、発掘以来の保存修理は両輪である。100年後を考えると、発掘後日本人が研究を重ねて原画を傷めないように努力してきた業績を歴史として残すべき。100年先、200年先の日本人が、自分たちの心のふるさととして振り返るときに在り方というもの、今後は具体的にイメージしていくとよい。新施設に行けない方のためにウェブ上の博物館の構築を積極的に進めると良い。

和田座長：様々な方の努力により、多くの問題を調整しながらやっここまで来て、これからは、より具体的に一つ一つを決めて実行に移していく段階に来た。世界遺産も今年ICOMOSの視察があるとのことで、そちらとも会議等で意見を交わす方向で進んでいくと良いと思っている。

②米村調査官より、「資料2-1 高松塚古墳の保存管理の経緯と壁画修理後の当分の間の保存の在り方について(案)」、「資料2-2 キトラ古墳の保存・活用について(案)」、「資料3-1 国宝高松塚古墳壁画及び国宝キトラ古墳壁画の保存活用に関する令和7年度の検討事項」、「資料3-2 古墳壁画の保存活用に関する検討会 新施設ワーキンググループ委員」の説明を行った。

林部委員：文章の順番を入れ替えたほうが分かりやすのではないか。保存管理の方針を書いた上で、なお当面の間について書くほうが、分かりやすくなる。

和田座長：内容に大きく変わるところがなければ、今のご提案のように分かりやすい形を取っていただければありがたい。事務局にお任せする。

柳澤(秋)委員：資料3-1で、文化庁から、今後の今の検討事項の御説明があったが補足として国交省の動きを報告する。令和7年から8年にかけて、事務所の機能を仮移転することを考えている。移転先としては、同じ国営飛鳥歴史公園のキトラ地区の一部の建物を使う段取りをしている。併せて、可能であれば、来年度、今の事務所を解体する動きに入っていきたい。その先に埋蔵文化財の調査もしていくという、今年、来年の予定を考えている。三村委員から御指摘もあったように、解体工事についても留意する点は様々あるので、文化庁とも十分連携をしながら、慎重に進めてまいりたい。並行して、新施設の展示の検討を進める。文化庁からワーキングの設置もお話あったが、公園も同席なり参加しながら、十分連携が取れるように進めてまいりたい。

成瀬委員：新施設のワーキンググループ、温湿度のことが重要になってくると思うが、保存科学関係の方がこの中に関与して進めていくのかを教えてください。

米村調査官：ワーキンググループには、保存科学の専門の方は入ってはいませんが、実際の展示の部分と施設全体の部分で、保存科学のスタッフ、東文研、奈文研の皆様にも相談しながら進めていくようにしたい。

成瀬委員：施設の格好を優先し過ぎて後で、保存科学が泣いているという話はよく聞くので今話を聞いて安心した。

和田座長：柳澤委員のご発言にそくして、全体の保存に向けての活動の中で、国交省で実施することも一緒に記録として適切に残していければありがたい。

柳澤（秋）委員：承知した。

柳澤（伊）委員：展示に関して、仮施設で2008年から17年間展示し公開しているが、その蓄積が見えてこない。アンケートを取られているようだが、どのようなアンケートが出て、来訪者が感じていることをどう生かすのかという話がこの検討会の中で出てきていない。一度総括をされてはいかがか。この17年間どのような声かけをして、どういう効果があったのか等の検証もしていただきたい。

米村調査官：アンケートの結果については、再度確認して、総括のような形で新施設でも活かしていきたいと思う。

・奈良文化財研究所 廣瀬室長、石橋室長より「資料4-1 高松塚古墳及びキトラ古墳の保存活用について」説明を行った。

・東京文化財研究所 犬塚センター長・室長より「資料4-2 国宝高松塚古墳壁画及び国宝キトラ古墳壁画のメンテナンス等について」説明を行った。

・奈良文化財研究所 脇谷室長より「資料4-3 高松塚古墳石材・漆喰に関する検討について」説明を行った。

・東京文化財研究所 犬塚センター長・室長より「資料4-4 国宝高松塚古墳壁画及び国宝キトラ古墳壁画の材料調査について」説明を行った。

・東京文化財研究所 佐藤室長、奈良文化財研究所の脇谷室長より「資料4-5 国宝高松塚古墳壁画仮設修理施設及びキトラ古墳壁画保存管理施設の保存環境について」説明を行った。

和田座長：森川委員から問題提起があったが、酸素を遮断するという点に関して、保存科学でどのように考えられるのかを、次の会議にでも、技術的な問題も含めてお答えいただければありがたい。さらに、新施設に石室石材をどう運ぶかというのも非常に大きな問題なので、脇谷室長から様々な提案があったが、御意見、このような方法もある等を保存担当にお伝えいただければありがたい。

・米村調査官より、資料5「国宝キトラ古墳壁画の公開（第35回）について」「国宝高松塚古墳壁画修理作業室の公開（第49回）について」説明を行った。

和田座長：NHK柳澤委員から、一度まとめて総括してみたらどうかという意見があった。毎回、6,000人から7,000人の方に来ていただいているのは非常に重要なことなので今後の施設の計画にも役立つと思う。

・米村調査官：資料の2-1、2-2に関して、修正の御提案をいただいた。修正に関しては最終的に整えたものに関して、座長一任でまとめさせていただくことで、委員の皆様、御了承いただけるか。

「異議なし」の声

・里中委員：人の関わりを的確に伝えることが、みんなに印象を残す。人間の大きさがどれぐらいで、どのように描いたかという、この墳墓ができる様子、その再現が何かで見られると良い。アニメでもいいが、バーチャルで見ることができれば、もっと理解が深まるのでは。見せ方に関しても、よりよい伝わり方、よりアピールしやすい形で、様々な形でチャレンジできればよい。

和田座長：VRも、いつも説明する人が横につくわけにもいかない。言葉を入れる、文字資料を入れるなど、皆さんが活用しやすいような工夫をしてほしい。

佐野委員：公開に尽力されていること、大変ありがたく思っている。今回のキトラ古墳壁画のリーフレットはよくできている。こういう無料の配布物で朱雀が原寸大で出ていると大変分かりやすく、学術的な調査研究の進んでいる、毎年その段階の新しい情報が入ったものを作成していることに感謝したい。

作田課長補佐：次回、第38回の検討会の開催は、年が明けまして、令和8年2月25日水曜日午前に京都での開催を考えている。

以上